

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 作文コンクール表彰式

02 リレーエッセイ

03 交流事業の紹介

05 加盟校出身学生・卒業生の紹介

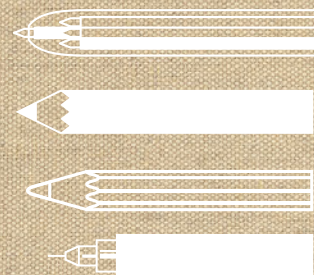
06 加盟校の取組紹介

07 大教大トピックス／編集後記

作文コンクール表彰式

府立高校教職コンソーシアムの加盟校及び府立高校・高等部の生徒を対象とした作文コンクールの表彰式を、12月25日に行いました。





「The great teacher…」

大阪教育大学英語教育部門 箱崎 雄子

次の英文をご覧ください。

He saw a woman in the garden with a telescope.

皆さんは、どのような場面を思い浮かべましたか? 「彼が女性を見た」のは明らかですが、庭にいるのは「彼」でしょうか、「女性」でしょうか。また、望遠鏡を持っているのは「彼」でしょうか、「女性」でしょうか。たいていの場合、「彼が望遠鏡で、庭にいる女性を見ている場面」を思い浮かべるようです。それはどうしてでしょうか。私たちは、これまでの経験や知識から、望遠鏡を持っているのは「彼」で、庭にいるのは「女性」だという判断をするようです。

では、機械翻訳はどう判断するのでしょうか。グーグル翻訳にこの英文を入力すると、「彼は庭で望遠鏡を持った女性を見た」という訳になりました。松尾 (2015) は「一般常識をコンピュータが扱うためには、人間が持っている書ききれないくらい膨大な知識を扱う必要があり、きわめて困難である」と述べ、コンピュータが「知識」を獲得することの難しさを指摘しています。

ロボットによる代替可能性

2015年に株式会社野村総合研究所は、国内601種類の職業について、人工知能やロボット等で代替される確率を試算しました。その結果、10～20年後に、日本の労働人口の約49%が代替可能と推計しました。人工知能やロボット等による代替可能性が低い職業と高い職業各100種が公表されましたが、「教員」は、無事(!)、「代替可能性が低い職業」にランクインしました。分析結果によると、「芸術、歴史学・考古学、哲学・神学など抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業、他者との協調や、他者の理解、説得、ネゴシエーション、サービス志向性が求められる職業は、人工知能等での代替は難しい傾向がある」ということでした。やはり、ここでも「知識」が鍵になっているようです。

教師の役割とは?

Barr & Tagg (1995) は、高等教育における「教授パラダイム」から「学習パラダイム」への転換を提唱しました。「教授パラダイム」は教師主導 (teacher-centered) で、教師は

教える存在で、学生は教えられる存在です。教師は何を教えるかを考え、学生に知識を伝達する役割を果たします。一方、「学習パラダイム」は学生主導 (student-centered) で、学生は学ぶ主体者で、教師は学生が何ができるようになるかを考え、学生の学びを支援するファシリテーターの役割を果たすことになります。つまり、教師の役割は「教える」ことから「学びを支援する」ことにシフトしています。

では、教師をめざしている皆さんが、今、できることは何でしょうか。それは、学習者としての立場を活かし、どのような支援が必要か意識しながら学習することです。つまり、「良い学び手」になることです。そのことが、将来、生徒に寄り添うことができる教師へと繋がるのではないのでしょうか。

偉大な教師とは?

以前、英語の授業でアメリカの教育者 William Arthur Ward 氏の言葉の一部を紹介し、グループで空所に入る動詞について考えて、アイデアを発表するという活動を行いました。

The mediocre teacher _____.

The good teacher _____.

The superior teacher _____.

The great teacher _____.

皆さんは、空所にどのような動詞を入れますか?

参考文献

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change*, 27(6), 12-25.

株式会社野村総合研究所. (2015). 「日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に」 https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/news/newsrelease/cc/2015/151202_1.pdf (閲覧日: 2021年2月1日)

松尾豊. (2015). 「人工知能は人間を超えるか」東京: KADOKAWA.



※ Ward 氏の言葉の原文は以下の通りです。
The mediocre teacher tells. The good teacher explains. The superior teacher demonstrates. The great teacher inspires.

箱崎 雄子 はこざき ゆうこ

大阪教育大学英語教育部門教授



高校生向け特別プログラム 「教師にまっすぐ」(最終回)を実施

教師をめざす高校生が、志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」の第5回(最終回)を12月26日(土)に柏原キャンパスで実施しました。

今年度の同プログラムは、これまで4回にわたる取組をすべてオンラインで実施してきましたが、最終回は可能な限りの感染防止策(参加者を5部屋に分けてZoomにより各部屋を接続、席の間隔を空ける、マスクの着用、入室時の手指消毒など)を講じて、対面式により実施しました。

開会に先立ち、参加者は学生スタッフの進行によるクイズに答えるなどのアイスブレイクに取り組みました。続いて、総合教育系の池嶋伸晃教授による講義「教師にまっすぐを振り返って」を受講した後、参加者に課していた小論文の講評及び表彰を行いました。185件の小論文の中から優秀賞として5件が選ばれ、その代表として大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎の久米さくらさんが、「バレーボールにおけるスパイク助走の研究～スパイクから、日本バレーボールの新たな勝ち方を探す～」と題した小論文を朗読しました。

続いて本学教員、教職大学院生や学部生らとともに、「教師にまっすぐ」受講後の感想を各部屋において交流し、今回の経験を生かして今後どのように行動するか等について、決意表明を行いました。

参加者からは「『教師にまっすぐ』を通して、どのような学びを高校や大学で必要とするのか、どうしたら教師になれるのかを深く知ることができた。また、教師や教えた科目のことについてもっと知りたいという意欲を持つことができた」「5回中4回はオンラインだったが、私たちが大教大について知ることができるようにプログラムが工夫されていた」「参加するまでは知らなかった大学の雰囲気や授業内容を知ることができた」などの感想が寄せられました。

高校時代に教職の志を高め、キャリア形成を図る同プログラムは、円滑な高大接続につなげることも目標の一つです。教職の魅力に気づき、教職を志す高校生が一人でも増えるように、本学は「教師にまっすぐ」を引き続き展開していく予定です。



アイスブレイクの様子



記念写真



「教師の学び舎」特別講座を実施

「教師の学び舎」は、「府立高校教職コンソーシアム」の加盟校及び大阪府内の公立高校の教員を対象に、授業力向上や生徒指導、ICT教育など様々なテーマの講義を提供しています。

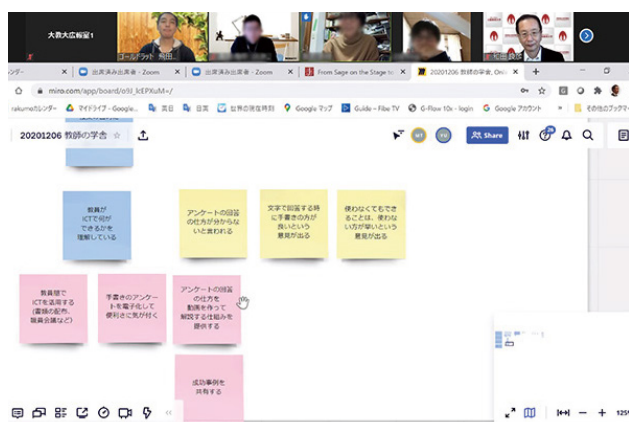
今回は特別講座「学校のお悩み解決ワークショップ GIGA スクール構想、1人1台 PC にどう立ち向かうか」と題して、12月6日(日)にゴールドドラット・ジャパンの飛田基氏、梅崎恭司氏を講師に招いて Web 会議システム (Zoom) で開講しました。

飛田氏と梅崎氏は、物理学者エリヤフ・ゴールドドラット博士が唱えたマネジメント理論「TOC (Theory of Constraint = 制約理論)」に感銘を受け、それを活用してセミナーやコンサルティングを通じて、さまざまな産業界の課題解決や行政改革において成果をあげています。

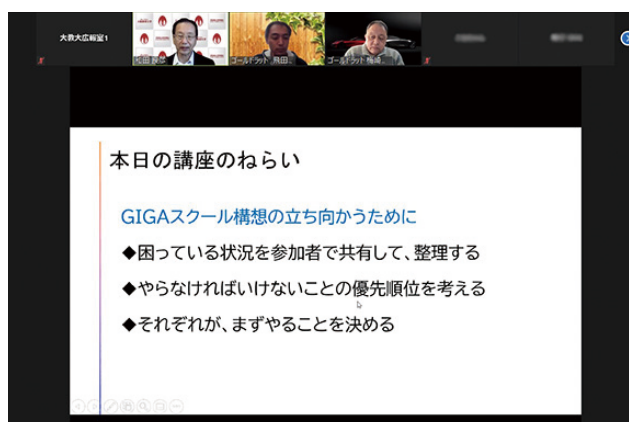
講座では、冒頭、和田良彦副学長より、文部科学省の GIGA スクール構想を受け、全国の学校においては生徒1人1台 PC の配備が始まり、来年度以降、通常の授業において PC を活用した展開を行うことが教員に求められていることを踏まえ、企業活動支援で成果を上げている TOC の手法を活用して、学校における課題を整理し、どのように取り組んでいけば良いのか、という本講座のねらいを解説しました。

続いて、飛田氏と梅崎氏は、TOC に基づき開発されたアンビシャス・ターゲット・ツリーと呼ばれる思考ツール(目標までどうやって行けばわからない時に、実現可能な道筋を導き出す)を活用してワークショップを実施。「生徒1人1台 PC を持つ環境の授業で、どんなことを達成したいですか?」というテーマについて、まず、参加者は達成したい目標を考え、それが簡単には達成できない理由(障壁)を出しあいました。次に、それらの理由を克服するための中間目標を考え、取り組む順序を検討しました。そして、最初に取り組む中間目標の実行上の懸念(起こり得るネガティブな事象)とその解消策を導き出して、ワークショップを終えました。

受講生からは「GIGA スクール構想として1人1台 PC の配備が差し迫っています。教育現場の課題に対して、ICT をどのように活用し、課題を解消していくのかを考えるよい機会になりました」「めざすべき姿を明確にしてから、中間目標、行動目標に落としこむアンビシャス・ターゲット・ツリーの手法は、仕事の現場でも活用したい」との感想が寄せられました。



ワークショップの様子



本講座のねらいを共有

加盟校出身学生・卒業生の紹介



ひくち ひろと
樋口 紘斗 さん 学校教育教員養成課程 小中教育専攻 数学教育コース2回生
高津高等学校2018年度卒

一高校時代の思い出は
硬式テニス部で部長をしていたことがとても思い出に残っています。30人ほどの部員をまとめて活動を行うことは大変でしたが、振り返ってみれば良い経験になったと思います。また、3年間で1度も休むことなく高校に通うことができ、卒業式の日に皆勤賞をいただいたことが嬉しかったです。全力で走り抜けた、あっという間の3年間でした。

課題を解いたりして1日ずっと数学に時間を費やすこともあります。数学は自分にとって楽しい学問なので新しい定義や定理を学ぶとワクワクしてしまいます。

一お勧めの勉強法

受験する科目は毎日勉強することが大事だと思います。例えば、僕は日本史が苦手だったのですが、教科書をスキマ時間に読むことで成績が上がりました。英単語も高2まで毎日コツコツと続けたことで受験生になってからの英単語の勉強は他の子に比べて楽だったと思います。こうした日々の積み重ねで着実に学力は身に付きます。そして、過去問は解けるようになるまで同じ問題を何回もするようにしてください。過去問を人に解説できるようにするくらい完璧にすると、自信が付き、純粋な学力も身に付きます。

一大教大のいいところ

教員になるための充実した授業がたくさんあることです。授業では学習指導案をつくって模擬授業をしたり、教職教養を学んだりと教職のための授業がてんこ盛りです。授業に参加している学生も教員という夢を持った方が多いですし、授業をされている先生も教育について詳しい方ばかりなので、教職に対するモチベーションを高く維持することができます。

一大学生活を有意義に過ごすには？

時間を大切にすること、努力を継続することが大切だと思います。大学生は生活リズムが乱れがちになりますが、教員になれば朝早く起きることになります。高校生のうちから正しい生活リズムを身に付けるようにしましょう。また、大学は勉強をサポートしていたら単位を簡単に落としてしまいます。そうならないためにも毎日継続して勉強する習慣を受験生活で身につけておいてほしいです。最後に、サークルやボランティア、アルバイトなどの予定を勉強の間に入れると大学生活を有意義に過ごすことができると思います。

一高校の数学教諭をめざしたきっかけは？

高校の数学が楽しいと思ったからです。私は問題に対して様々なアプローチをしかけて1つの答えをめざすということが数学の魅力だと感じ、その魅力を教員になって高校生に伝えたいと思いました。

一小中教育専攻数学教育コースのいいところ

小・中・高のすべての免許が取れることだと思います。小中教育専攻は主に小学校の教員になるためのカリキュラムが展開されていますが、数学の専門科目も充実していますし、希望すれば教育実習を3回生と4回生で合計2回実施することも可能です。将来はどの校種に就きたいのか、教員免許を複数所持することで進路選択の幅が広がるのが魅力の1つです。

一大学生活で頑張っていること、楽しいことは

大学生活では主に数学の勉強を頑張っています。数学専攻なので当然ではあるのですが、大学の数学は高校までと違って内容が非常に抽象的なので、これまで以上に努力しなければなりません。授業の内容を復習したり、毎週の

たなか かなた
田中 奏多 さん 教育協働学科 理数情報専攻 自然科学コース3回生
天王寺高等学校2016年度卒

一高校時代の思い出は

イベントが大好きで、特に文化祭(母校では文化展示発表会)が一番思い出に残っています。3年生の最後の文化祭のフィナーレで、ダンスを踊ったのですが、その時の観客の盛り上がり、あの景色は今後忘れられそうにありません。

一なぜ理数情報専攻 自然科学コースに？

もともと教師になりたいという気持ちが小さいころからあったのですが、高校で理科を学ぶにつれてその分野をもっと深く学びたいという気持ちが強くなり、教員の勉強もできて、かつ理科(私の場合は特に化学)の内容も深めることができる理数情報専攻 自然科学コースを選びました。授業では、理科に関する講義や実験だけでなく、「協働」をキーワードに教材開発や実際の現場での実習を体験したり、理科にかかわる様々な経験を積むことができるので、すごく充実しています。

一カリキュラム外ではどんなことをしていますか？

私は、「大学に入っている人々と関わって、経験を積みたい!」という気持ちを持っているので、卓球サークルや大学外で活動している団体に所属したり、資格勉強をしたりしています。また、地元の中学校での部活動サポートを行ったり、大学外の団体が主催しているイベントのお手伝いといったこともしています。その中で、同じ大学の友達以外に、自分とは全く異なる考え方を持った人たちと意見を交わしたり、共同作業を行うことは刺激的で楽しいです。

一大学生活で頑張っていることは？

大学に来たからには、やっぱり勉強でしょ、ということで、一番力を入れているのは勉強ですね。その中でも、答えがないものや答えに行き着く過程を考えることを重視しています。また、それと同じくらい頑張っているのが、新しいこ

とに挑戦するということです。大きな口をたたいてますが、例えば、これまで行ったことがない場所に旅行してみるとか、全く面識もなく知り合いがいないところに飛び込んでコミュニケーションを図るということをしています。大学に入学してから、初めてスノーボードを長野県で経験したのですが、有意義な時間を過ごせました。

一お勧めの勉強法

大学受験の時は、やらなければいけない勉強と気分転換を分けて、そのうえで綿密に計画を立てて勉強をしていました。自分の中で勉強に対する最大の敵は「モチベーション」だと考えているので、受験期にもかかわらず、ゲームをしたりスマホを触ったりと自分のやりたいことは適度にしましたが、その代わりに勉強を計画どおりに進めるなど、メリハリはちゃんとつけていました。

一大学生活を有意義に過ごすには？

大学生活は、その人の気持ちの持ちようによって、いかようにも化けるので、何かこれだけは大学生活中にやっておきたいということを持っておいたほうがいいと思います。例えば「海外に行ってみよう」とか「ゲームをとことんやりこみたい」とか。巷では「大学は人生の夏休み」と言ったりすることもあるみたいなので、やりたいことを思いっきり楽しんでやること、これが充実した大学生活の過ごし方かなと私は考えてます。いずれ将来を考えなければいけない時が来ますが、その時にやりたいことを持っているということはすごく強いアドバンテージになるかと思います。





加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立門真なみはや高等学校

本校は平成13年(2001年)に門真高校と門真南高校が統合され、門真高校の敷地に普通科総合選択制の高校としてスタートし、令和2年(2020年)に創立20周年を迎えました。国際・スポーツ・福祉・自然科学・情報・音楽・美術・書道など7つのエリアを設け「興味・関心に応じて深く学ぶ」学習を柱としてきました。平成29年(2017年)からは総合学科となりグローバル、自然科学、スポーツ、福祉、子ども教育の5つの系列を中心に学習活動を進めています。また、エリアでの学習を英語・中国語・理数・福祉・スポーツ・情報・文化・音楽・美術・書道の10のフィールドでの学習へと継承し、進路も見据えて、より探究的な深まりを意図した学習へと発展させてきました。



多文化共生・国際交流

日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜を実施し、毎年、外国にルーツを持つ生徒が10数名入学しています。この選抜は中国帰国生徒及び外国人生徒入学選抜という名称で実施されてきましたが、中国にルーツを持つ生徒だけでなく、フィリピン、ネパール、イタリア、ウクライナほかルーツが多岐に渡るようになっています。ルーツに関係なく学校設定のハングルや中国語を選択する生徒も多く、異なる文化を理解し受け入れ「学校の中に、他国の文化を持つ生徒がいるのが当たり前」という環境が本校にはあります。

コロナ禍の今年は実施できませんでしたが、日本を訪れる他国の生徒との交流も積極的に行っています。昨年は、インドネシア、中国からの来訪を受け、生徒の交流会は大いに盛り上がりました。

また、長期の休業期間には、短期の海外語学研修を実施しています。一昨年はグアム、韓国に、昨年はフィリピンに行きました。さらに昨年は府の高校生インドネシア派遣事業に参加した生徒もいます。参加生徒は、学期はじめに全校生徒の前で研修報告を行っています。語学研修が実施できなかった今年度は、フィールドの授

業の中で、以前に研修でお世話になった韓国、中国の高校とのTV会議システムを用いた交流を行いました。今後も学校間の提携を継続していく予定です。



地域交流・ボランティア

コロナ禍の外出自粛が続く中で不安になっているお年寄りを励ます取組として、福祉フィールドの生徒が文通プロジェクトに取り組みました。励ます取組が、いただいたお返事により生徒たちが励まされ、Zoomによる交流会の実現へとつながりました。お年寄りや地域の方々との交流活動は、多文化交流部による中国の踊りの披露、吹奏楽部による地域イベントへの参加をはじめ多くの部活動が参加し、地域とのつながりを強めています。



総合学科の強みを生かして

多様な進路希望をもって入学してくる生徒たちに、多様な選択科目、少人数授業といった総合学科の利点を活用し、生徒の興味・関心に応える授業の展開を通じてそれぞれの進路の実現に向けて取り組んでいます。また、産業社会と人間やフィールドでの学習を通じて、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を伸ばさせることで、将来に役立つ力を身に付ける教育を進めていきます。

幼児教育専攻の学生らが 公立幼稚園で音楽劇を披露

初等教育教員養成課程幼児教育専攻の学生らが、大阪府内の公立幼稚園で音楽劇を披露しました。音楽劇は、12月16日(水)に柏原市立幼稚園、12月21日(月)に大阪市立幼稚園において開催しました。

この取組は、初等教育部門の加藤あや子准教授が担当する「表現指導基礎演習」という授業及びゼミ活動の一環で、例年12月頃に幼稚園で音楽劇及び幼児のためのクラシックコンサートを披露しています。

柏原市立幼稚園では、授業を受講している2回生の学生らが、自分たちで一から制作した物語、楽曲、合奏譜をもとに音楽劇を披露しました。

大阪市立幼稚園では、ゼミに所属する3回生の学生らとサポート役として同ゼミの4回生の学生らが、幼児でも楽しめるクラシックというコンセプトのもと、子どもが飽きないような物語の中に、音楽やリズム遊びをちりばめた演奏を行いました。

両日ともに、コロナ禍のため、例年行なっている歌唱や管楽器の演奏を無くし、子どもとの接触を可能な限り少なくするなどの感染防止策を講じて実施しました。



大阪教育大学と東京書籍との ネーミングライツに関する 協定記念セミナーを開催

本学と東京書籍株式会社が令和2年9月からネーミングライツ・パートナーとなったことを記念して、本学と東京書籍株式会社の共催により、教育委員会や学校関係者の情報交流を目的とした協定記念セミナーを2月7日(日)に、天王寺キャンパス西館ホールでの会場参加とZoomでのオンライン参加を併用して開催しました。

第1部では、「GIGAスクール構想の実現について」「1人1台端末で実現する新しい学びのスタイル」「一人一台端末の活用～「一人も見捨てへん教育」のために」の3件の講演・発表を行い、GIGAスクール構想の現状と、各教育委員会での導入事例とその課題について共有しました。

第2部では、「明日から始めるSDGsと総合的な学習のカリキュラム・マネジメント」「SDGsの視点で創る2030年のほそごう地域・ほそごう学園～人権ベースでのSDGsのとりくみを大切にしたい人権総合学習の実践～」「北条小学校の人権総合学習～SDGsとともに生きる～」の3件の講演・発表を行い、SDGs教育の現状と、人権教育をはじめとした教育現場での実践事例について共有しました。



編集後記

12月に開催した「教師にまっすぐ。」修了式は、本年度初めて対面での開催となり、画面越しでしか見たことがない同志を持った仲間たちとの初対面となりました。当日行われたアイスブレイクや交流会で、自分の想いを仲間の前で語る高校生たちのまっすぐな目は、キラキラと光り輝いていました。この中から大教大に入学し、ゆくゆくは教育現場に飛び込んでいく者がいると思うと楽しみでなりません。

教師になることの魅力を再認識してもらい、教師をめざす若者が増えることを目的とした「教師の魅力向上プロジェクト～教師冥利に尽きるエッセイの公開・活用～」では、スピノフ企画の「恩師への手紙」も含め、100件を超える応募がありました。特設サイトで公開していますので、キャリア教育等でぜひご活用ください。検索⇒「エッセイ 大教大」 (N.R)

大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

@OsakaKyoikuUniv



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Instagram

@osakakyoikuuniv

イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。